

そうか
それは残念だ

話すことなんて
何もない!!

早速だが
君が潜入してきた
目的を話して
もらおうか?

正体が
バレていた...?

少女くすぐり

カッ

ガクン

ガッ

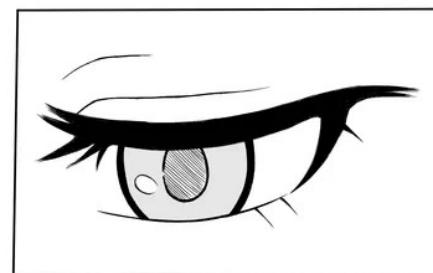
ビュオ

潜入捜査

後ろを見て
みたまえ

グググ...

な、何...?





この任務は
全て君に一任する

それは今、ある学園に
1つ存在している

先日、絶対に誰でも情報を
自白させてしまう兵器が
存在するという
情報を手に入れた



最初は
楽勝だと思っただけ

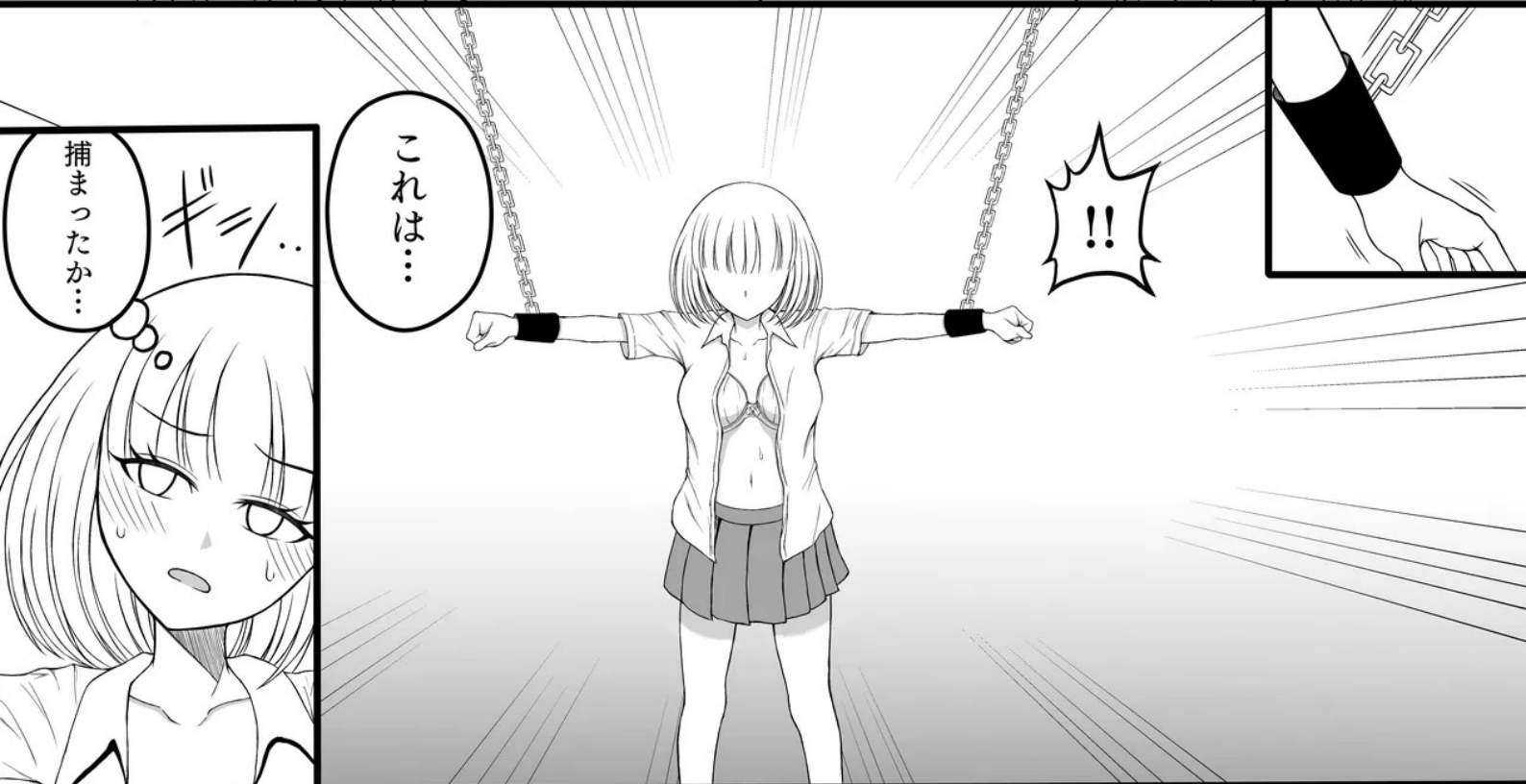
潜入してから一ヶ月
手がかりすら掴めていない…
そもその情報が
間違っていた…？

いや、絶対にあるはず…
見つけてみせる





ん…



これは…

!!

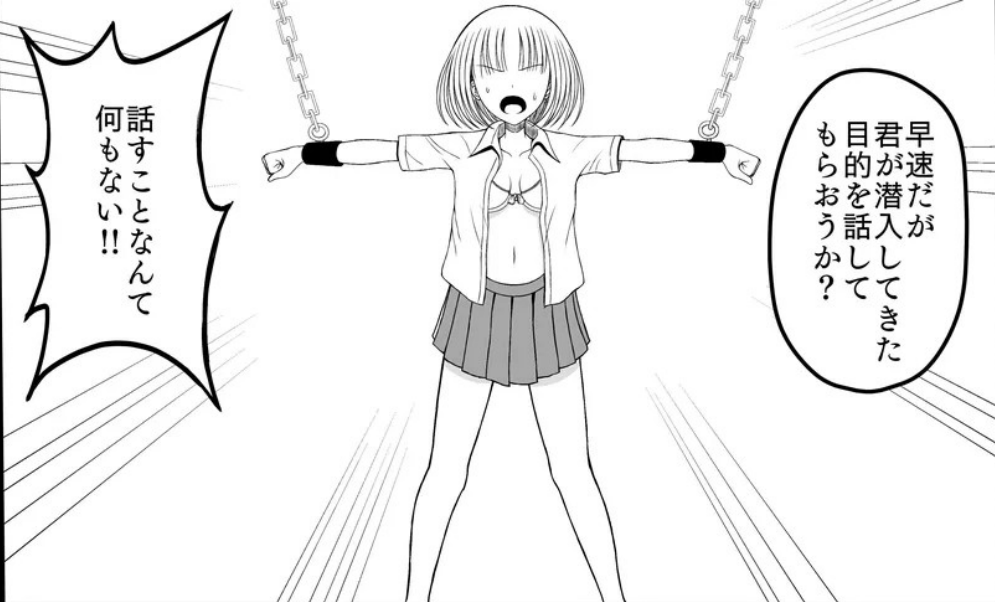


お目覚めのようだね

スパイといつても
案外隙だらけ
だったな

お前はっ!!

そうか
それは残念だ

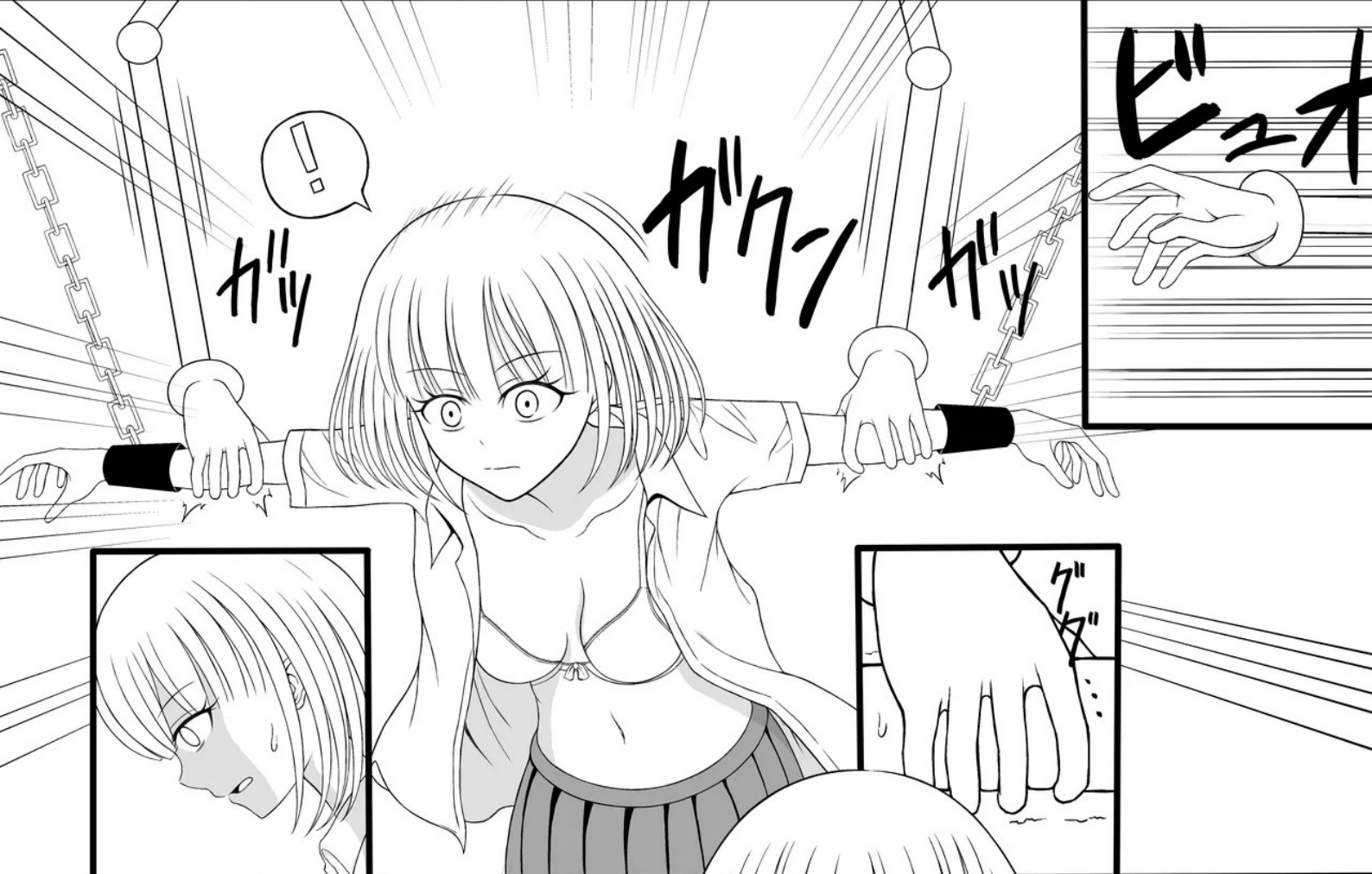


話すことなんて
何もない!!

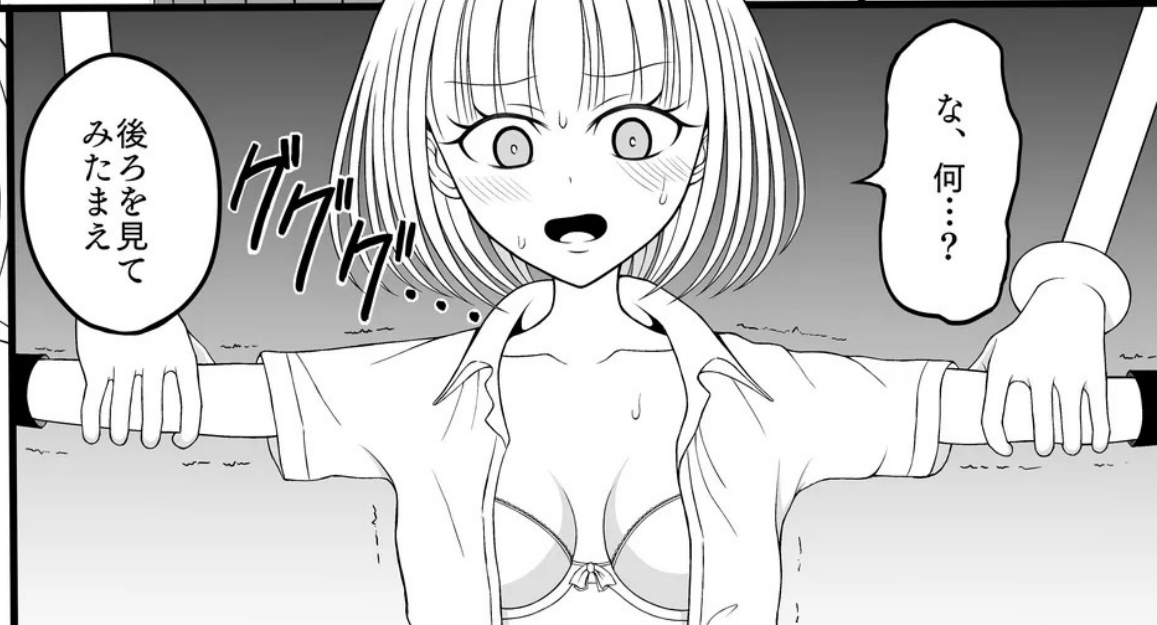
早速だが
君が潜入してきた
目的を話して
もらおうか?



正体が
バレていた...?

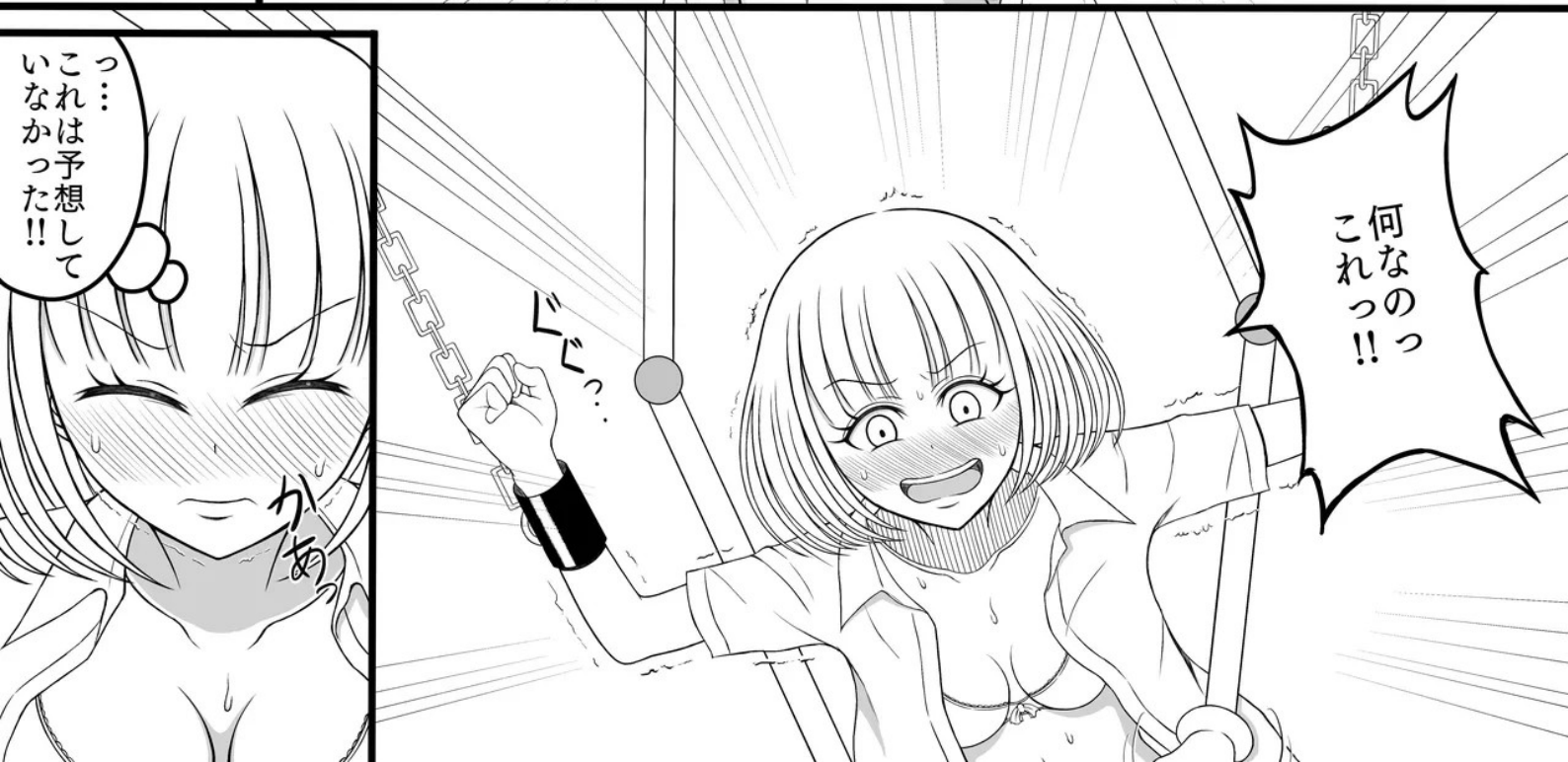
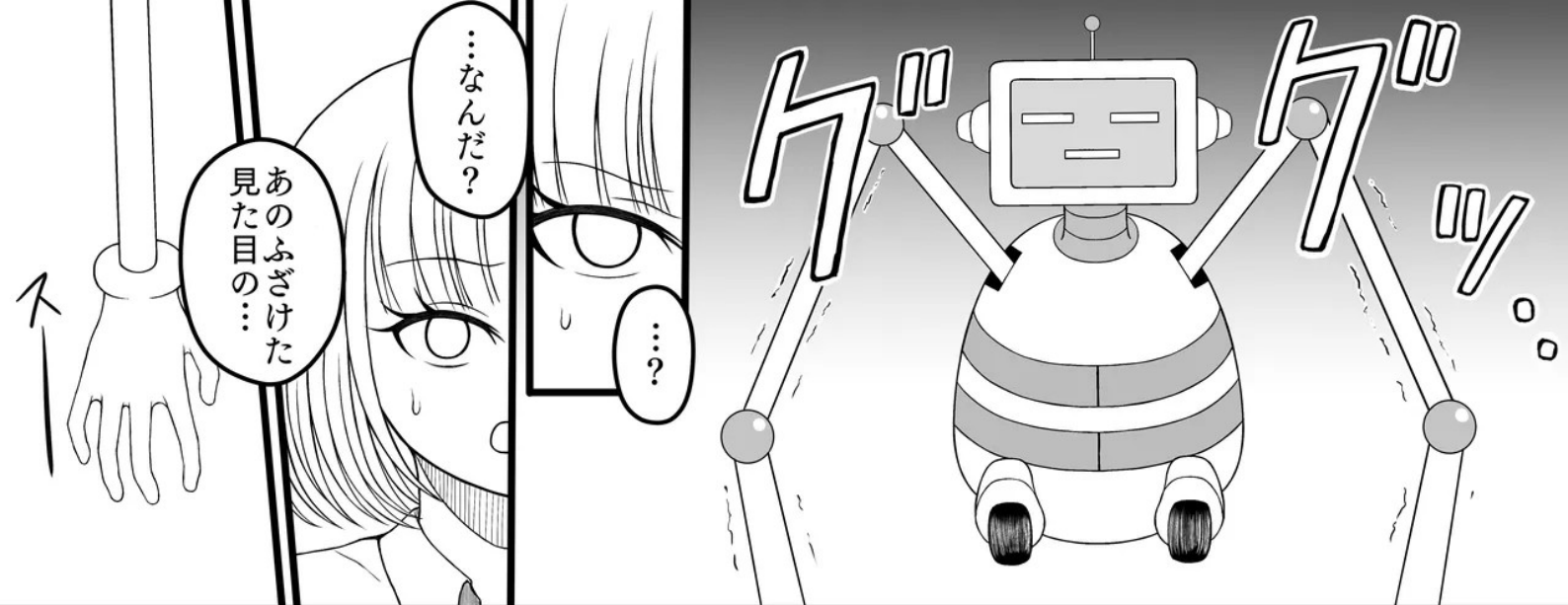


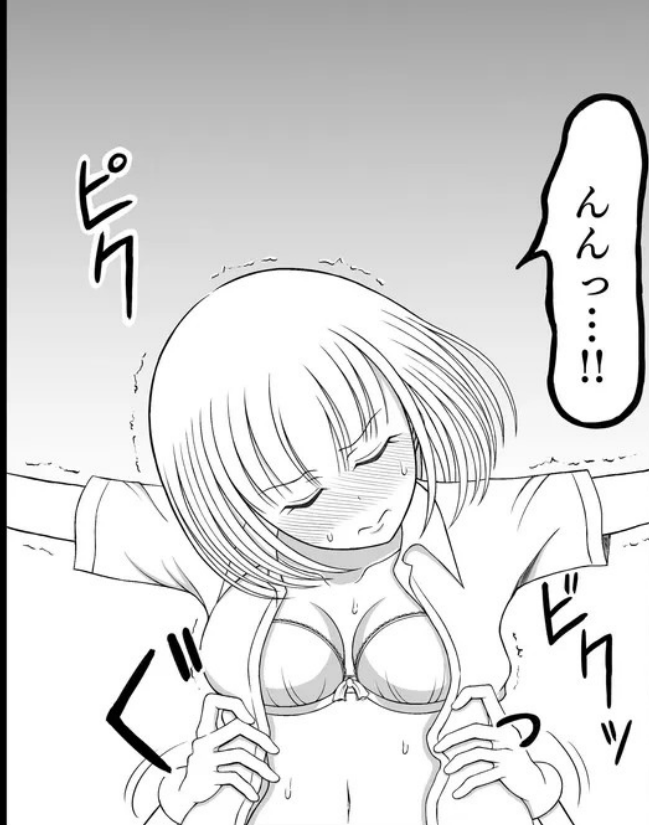
ビュオ



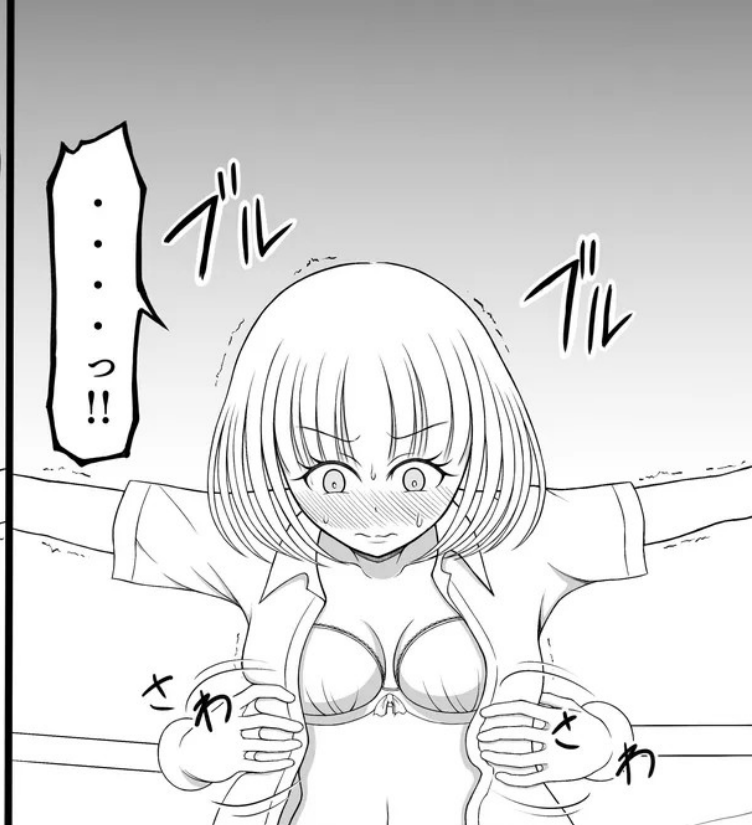
後ろを見て
みたまえ

な、何...?

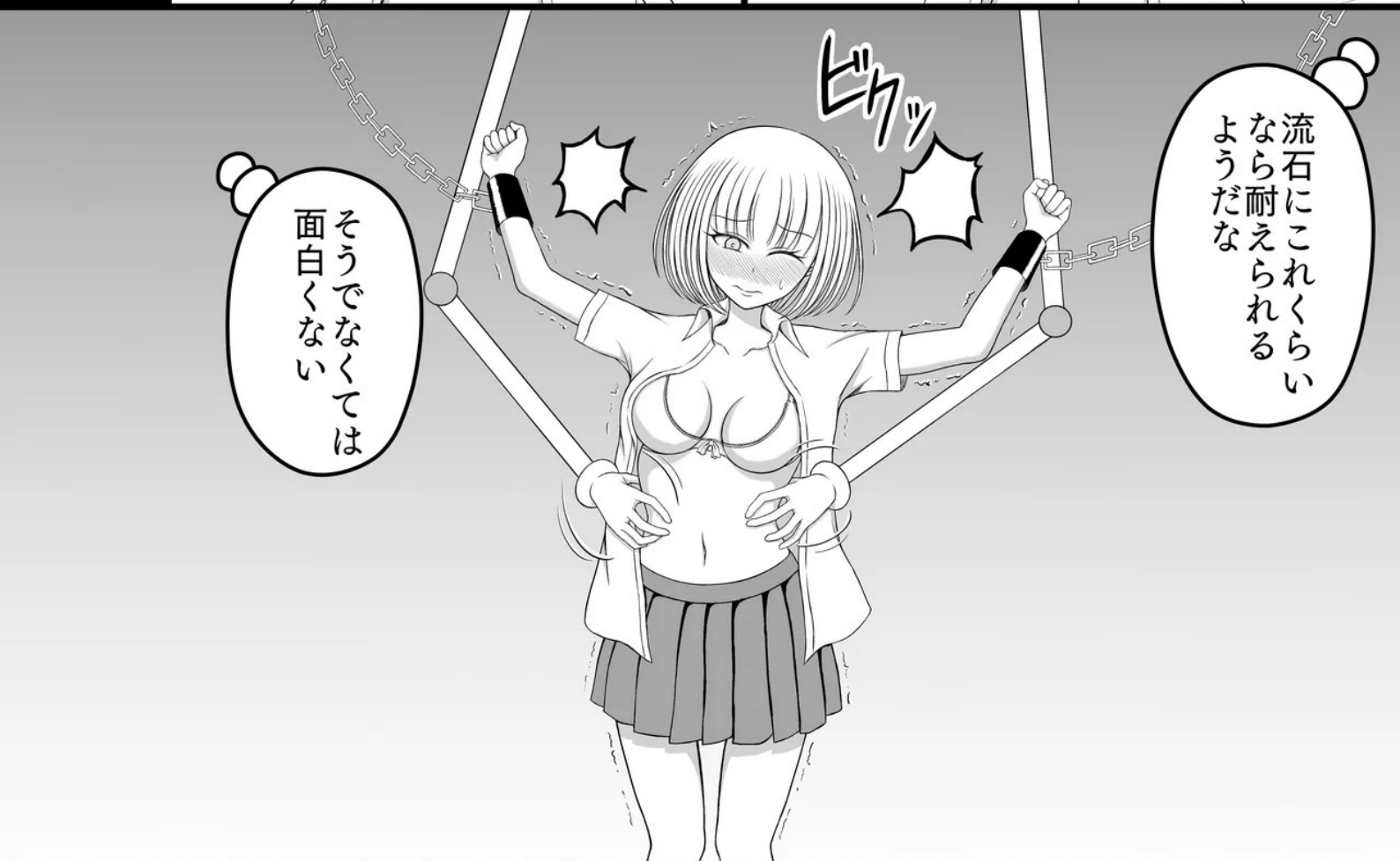




んんっ...!!



・・・っ!!



そうでなくては面白くない

流石にこれくらいなら耐えられるようだな



息も荒ぶが

さて少しは話す気になったかね



よし一旦停止

全然平気よ

そうは見えないが

だがそう言っ
てもらえる方が
都合が良い

情報を手に入れたのなら
こんなことは無駄だ!!

拷問に対する訓練
は何度も経験している!!

ここからが
本番だ

バシ

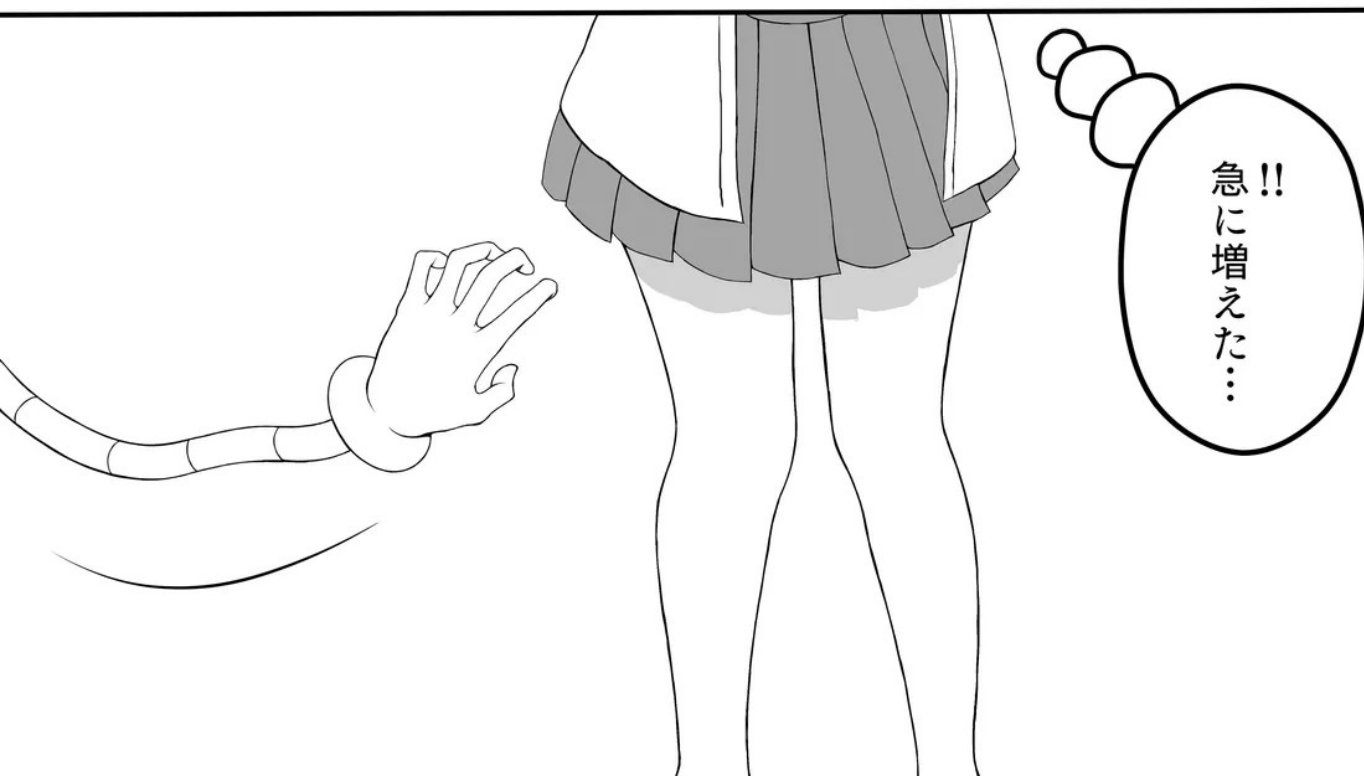
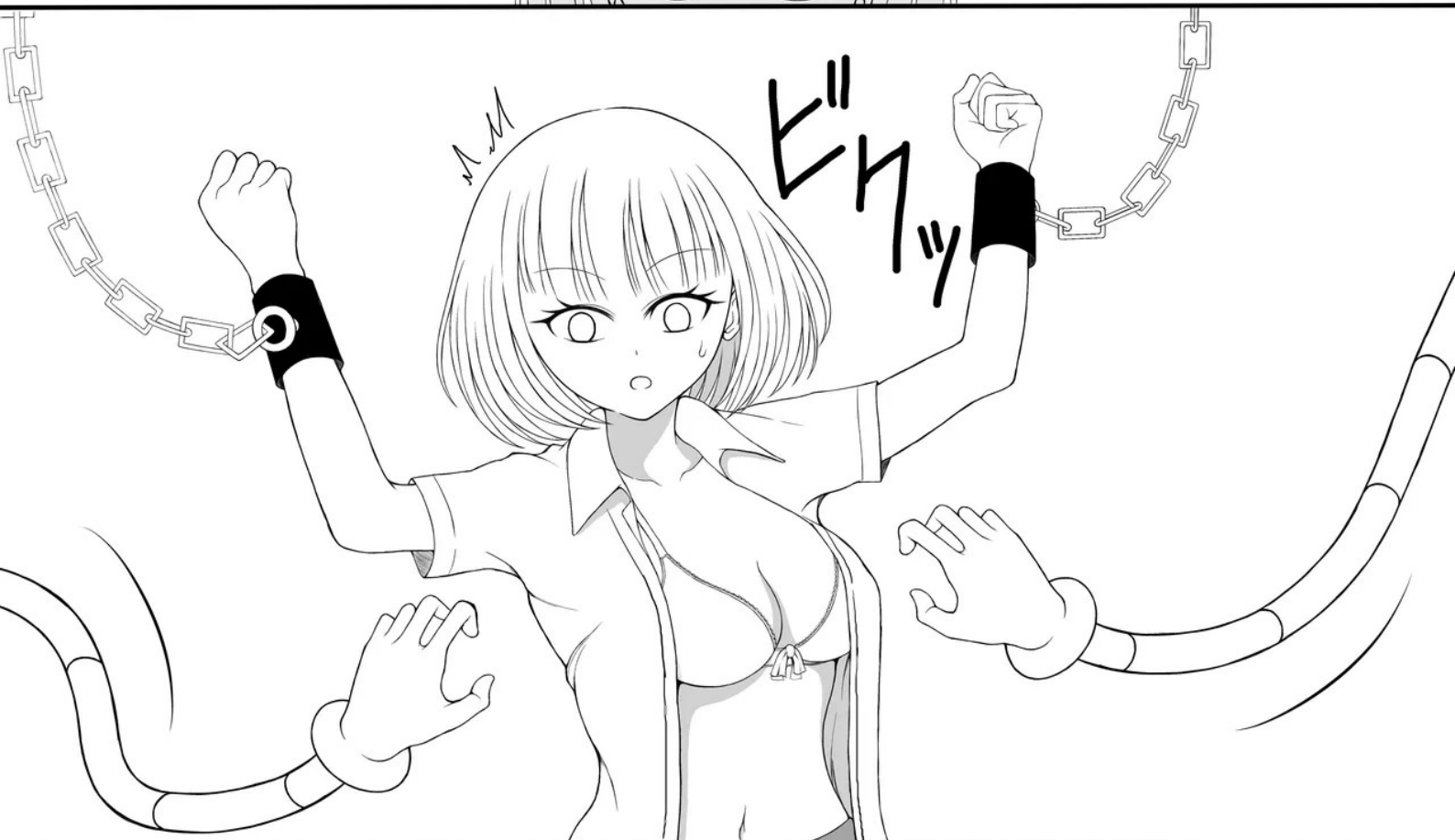
ガッ

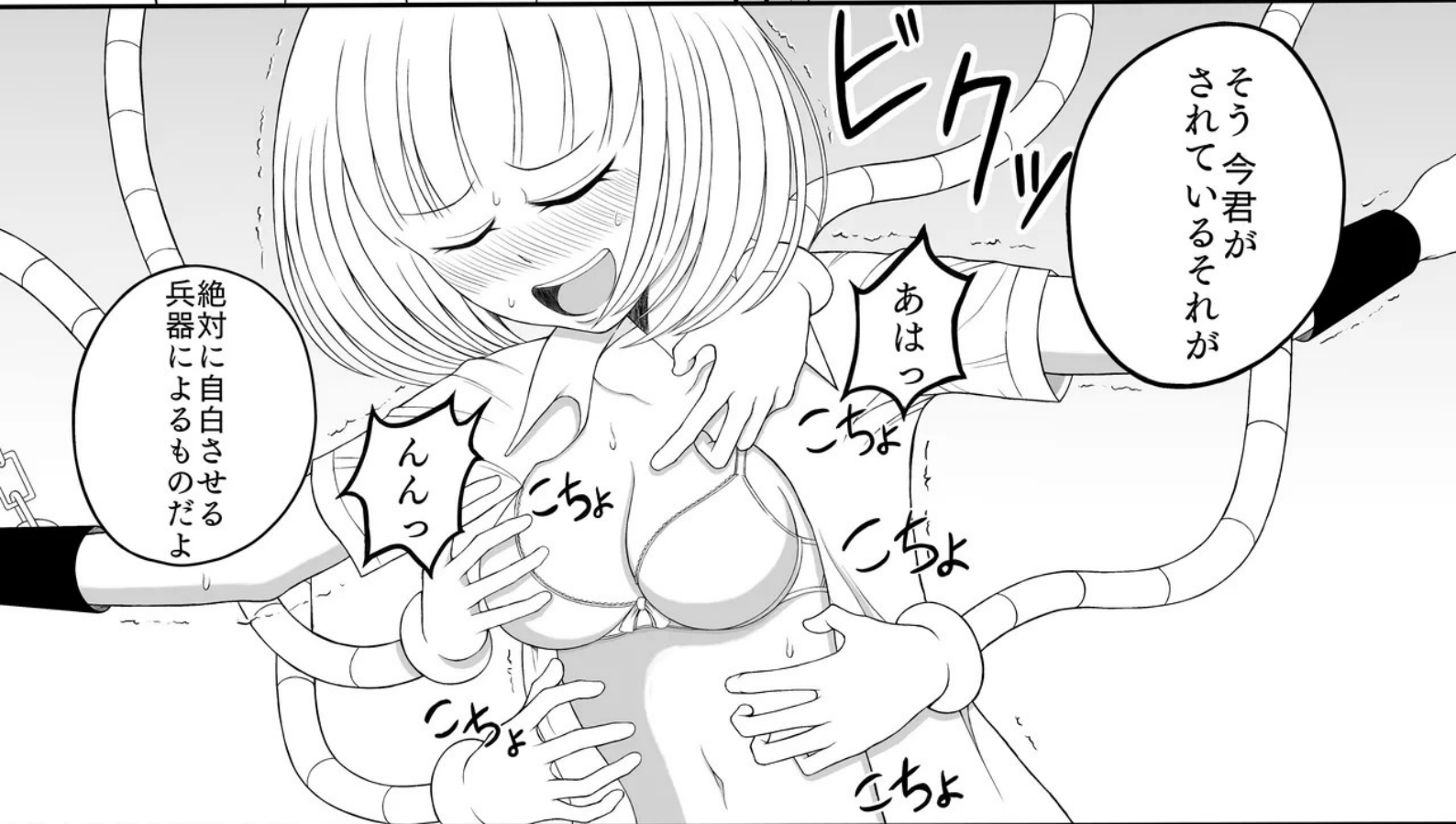
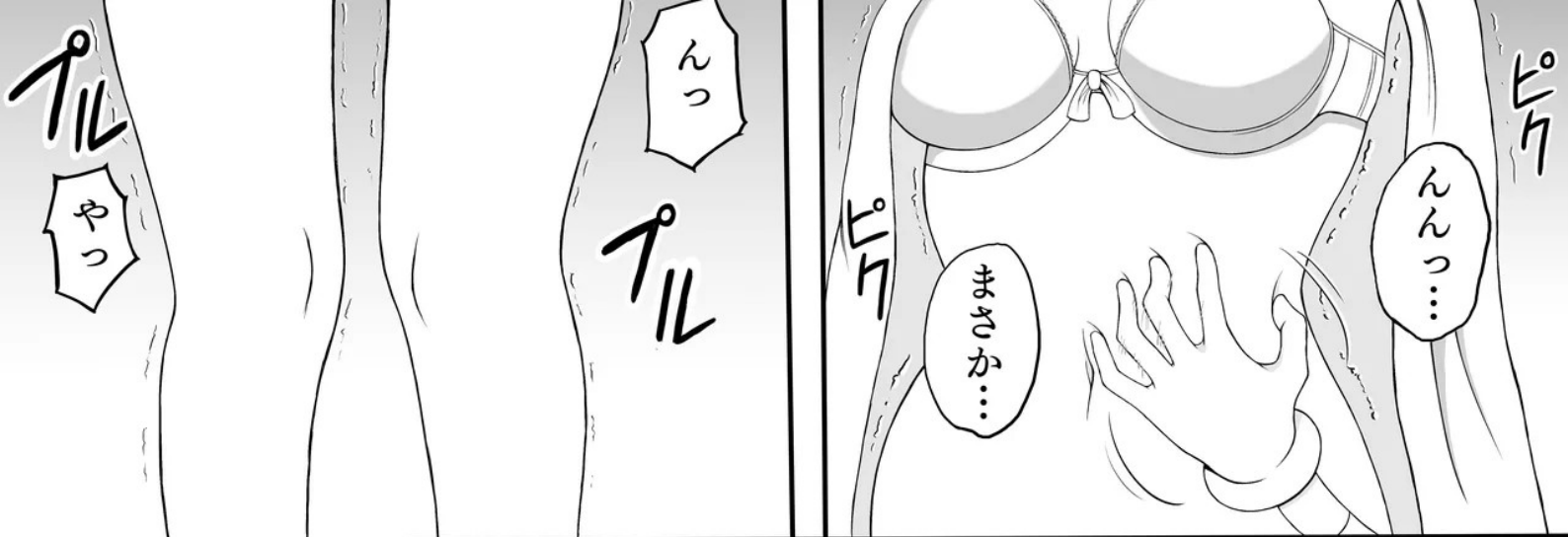
いや、君の
情報は必要ない

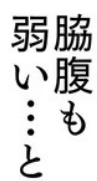
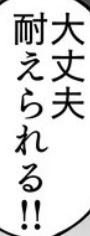
実のところ
君についての情報は既に
全て把握している

必ず自白させる兵器
それを探しに
来たのだろう?

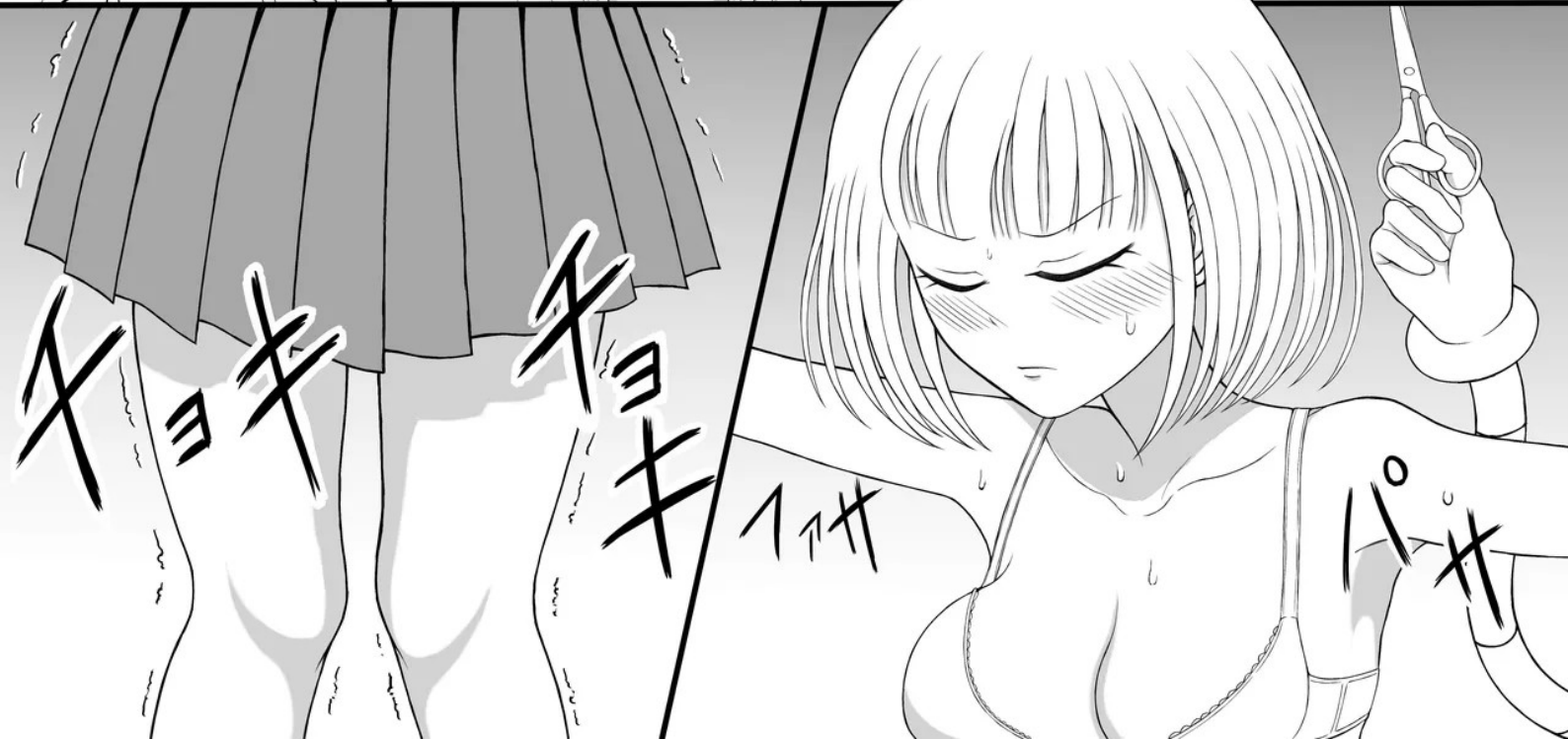
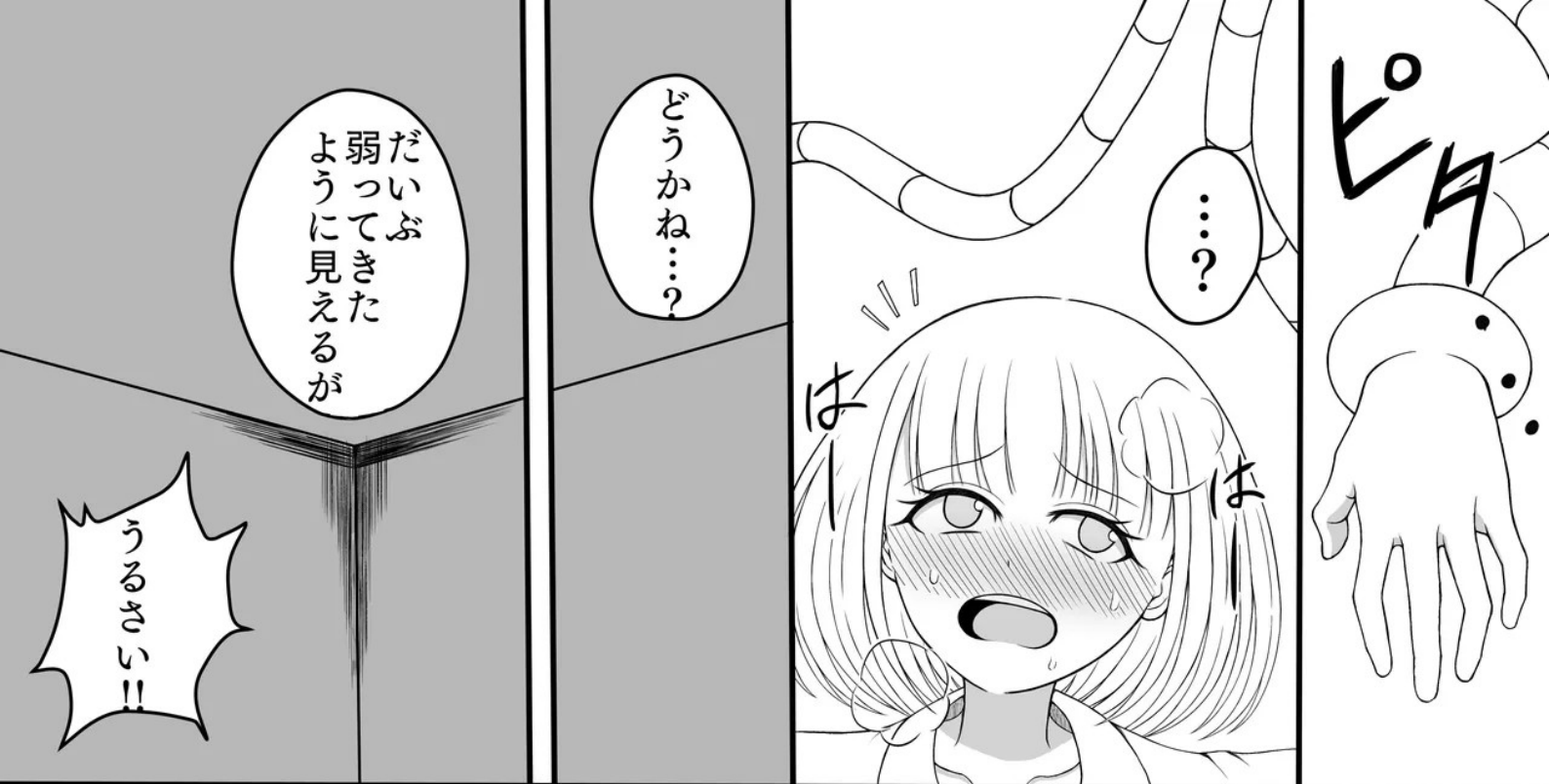
やっと発見できた
というわけだな

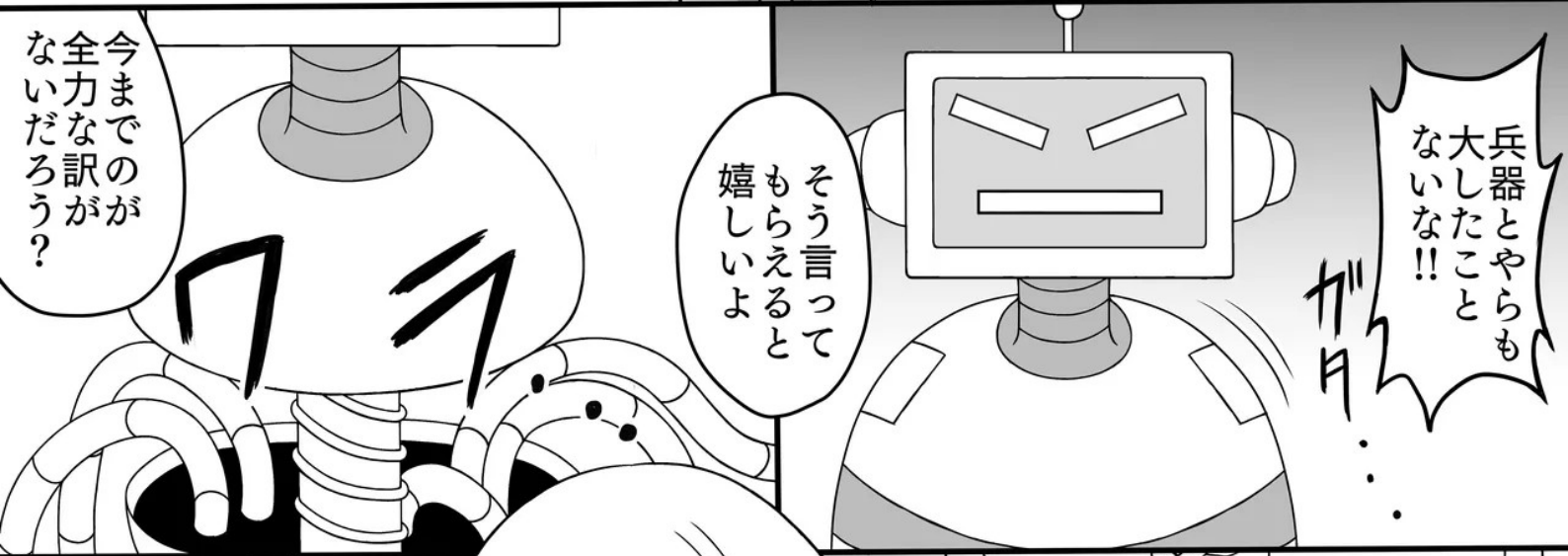
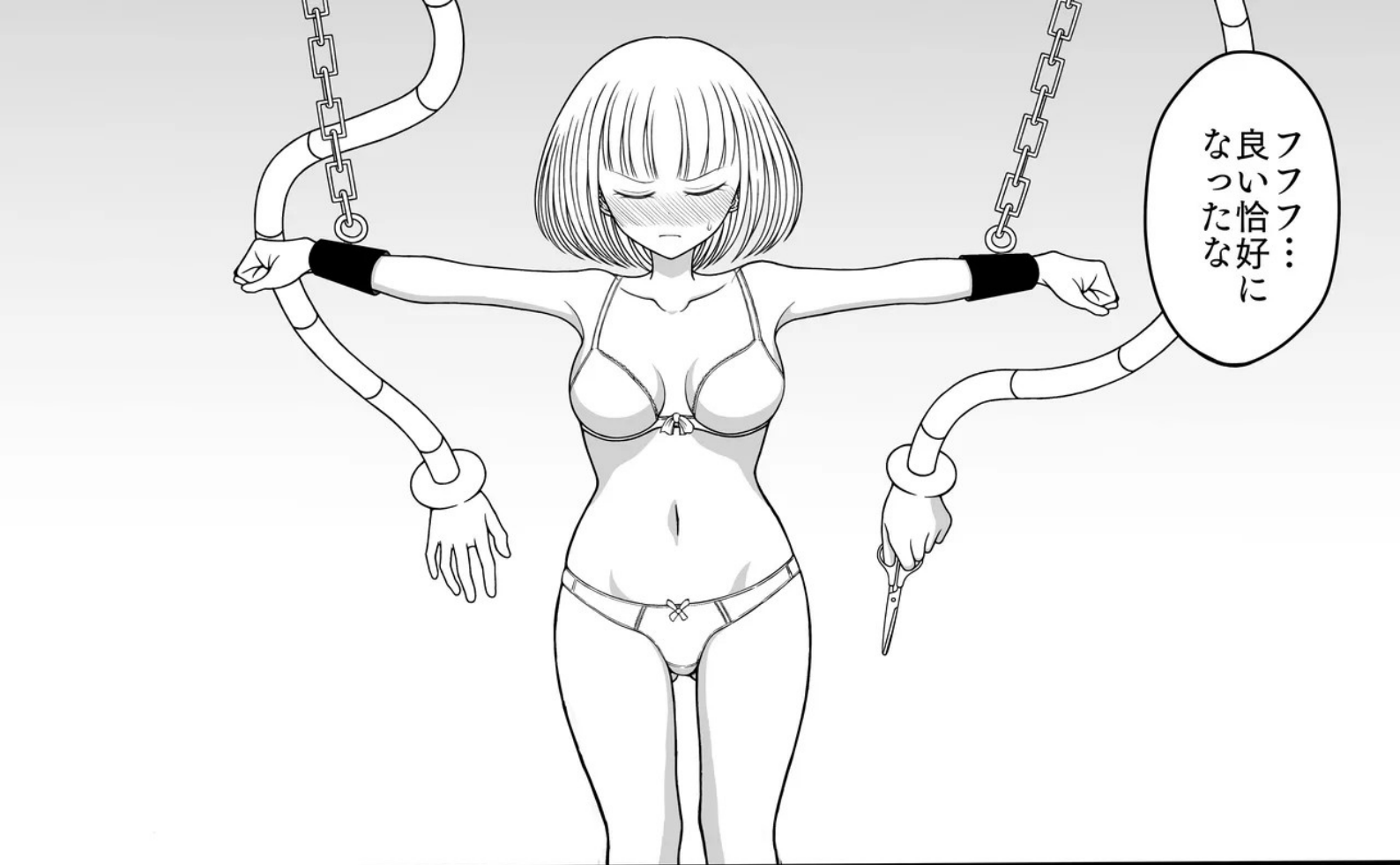


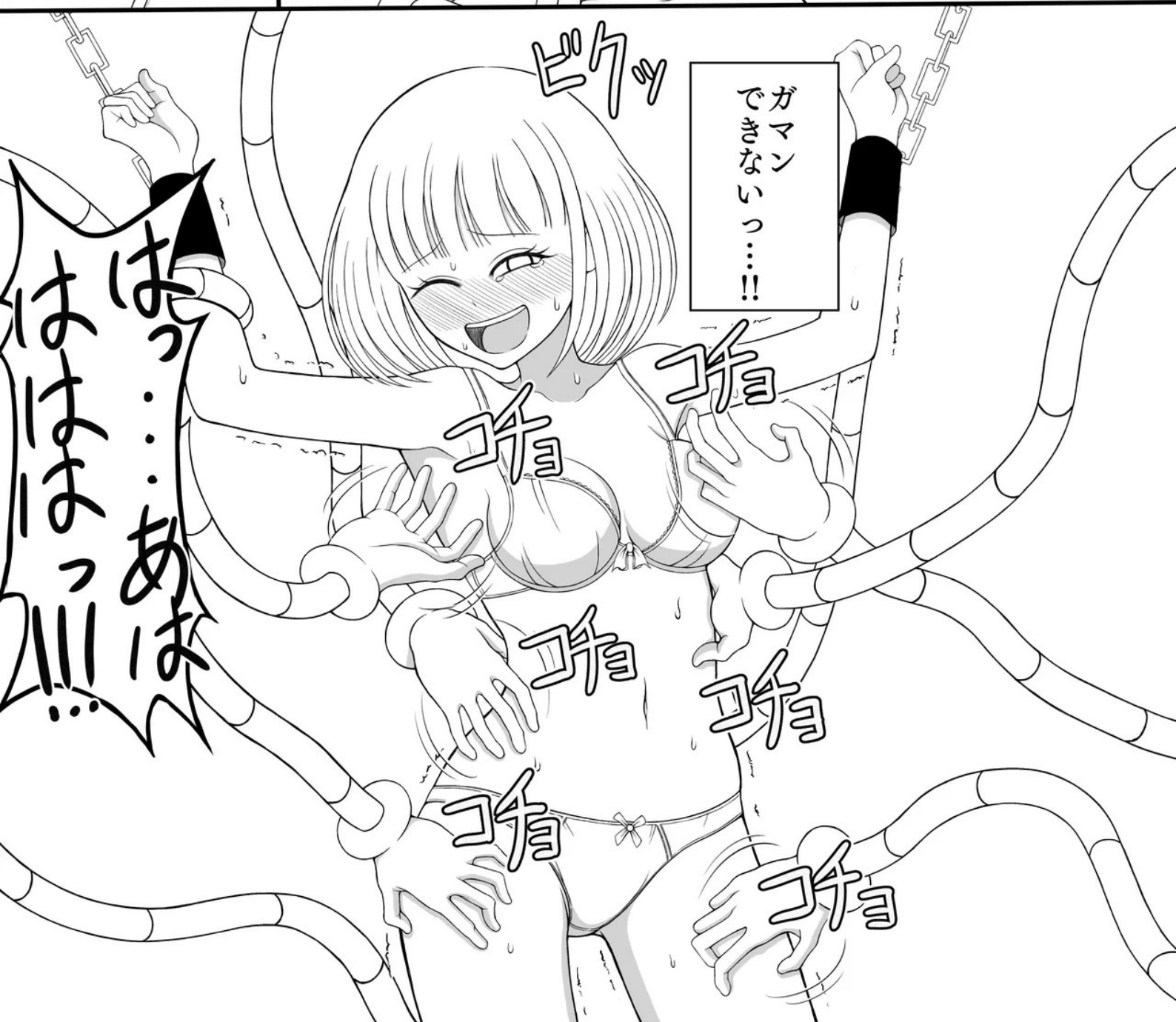
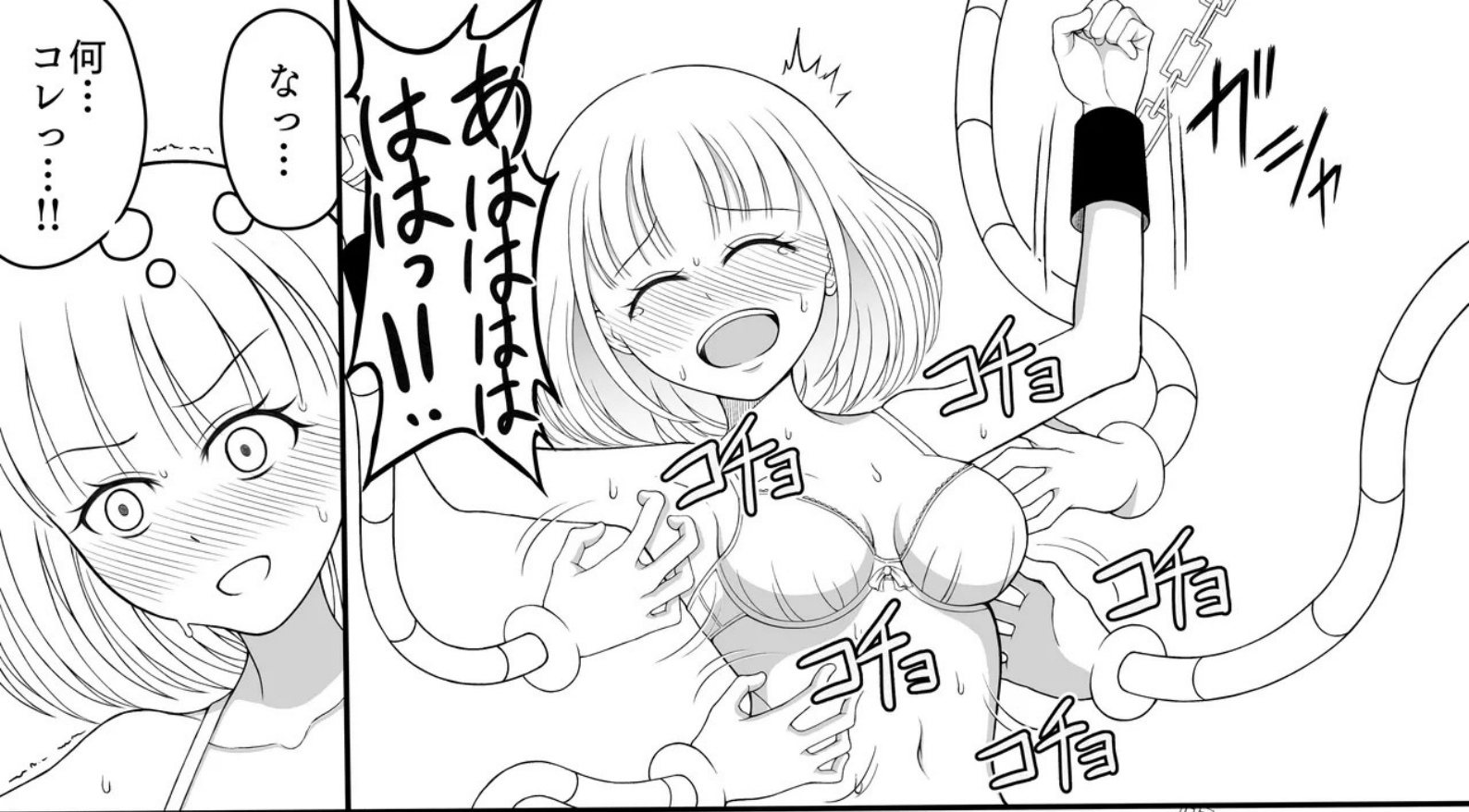


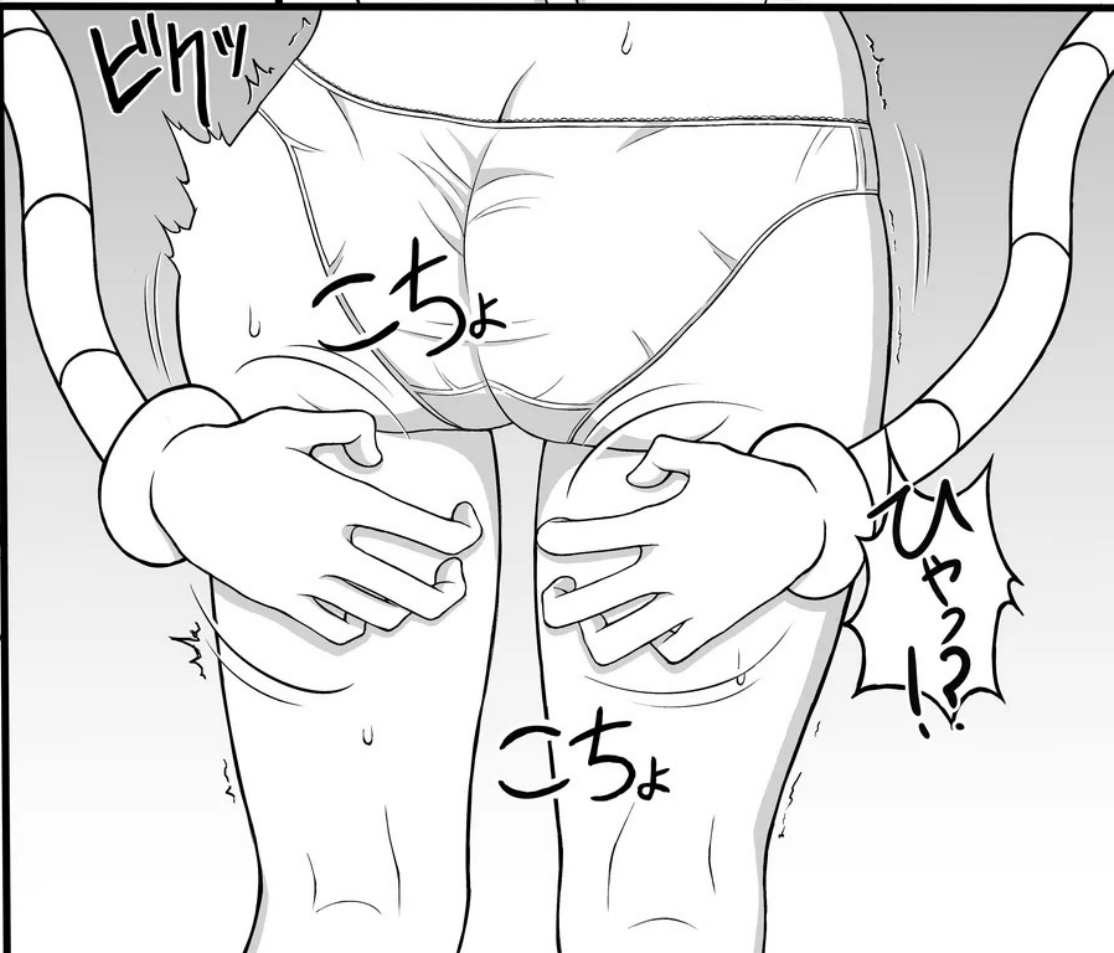












そんなとこまで
触るの!?

いっ嫌あ
あはははは
そっちは
はははっ!!

コチヨ

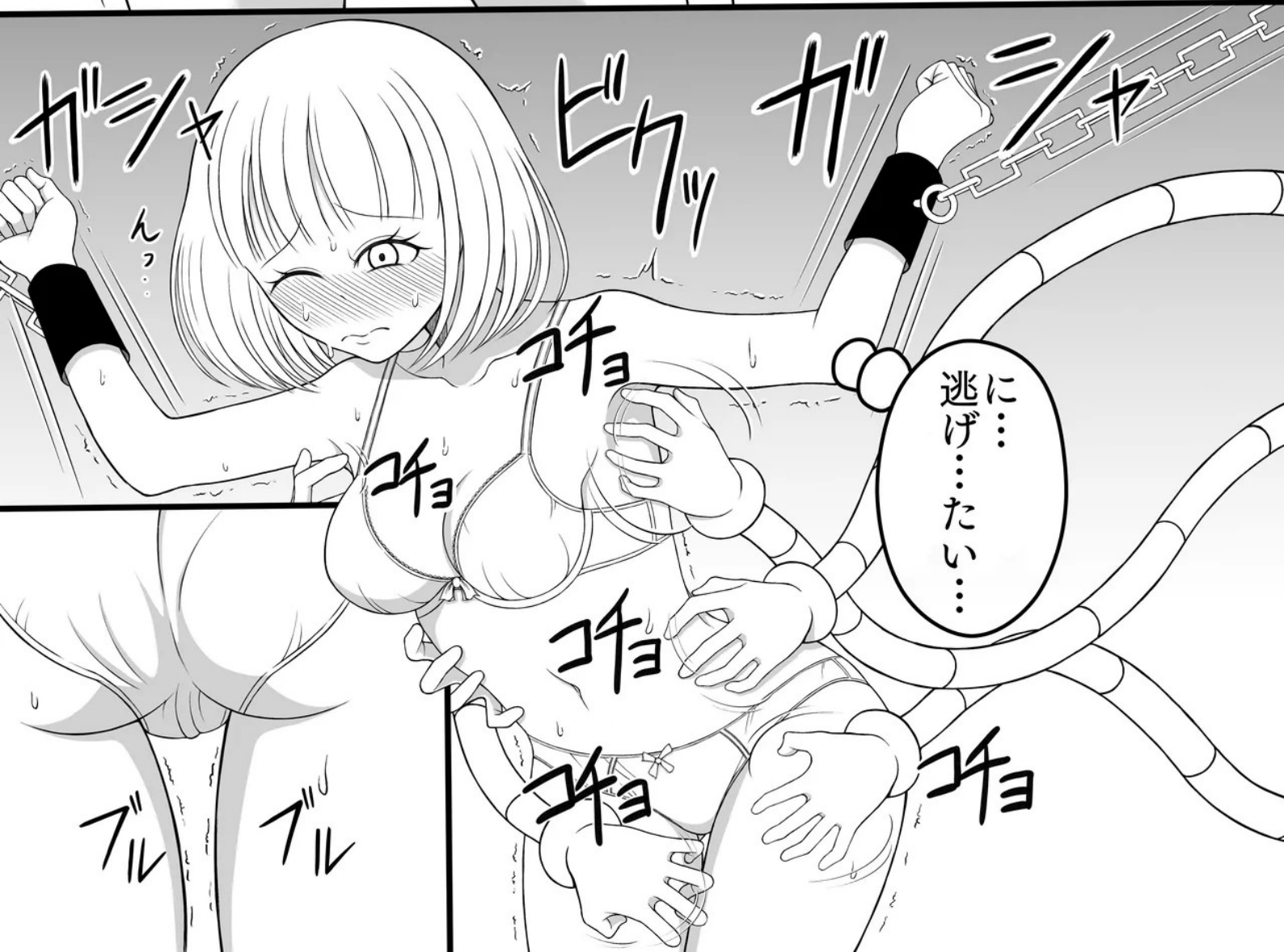
コチヨ

カク

コチヨ

コチヨ

カク



に...
逃げ...
たい...

コチヨ

コチヨ

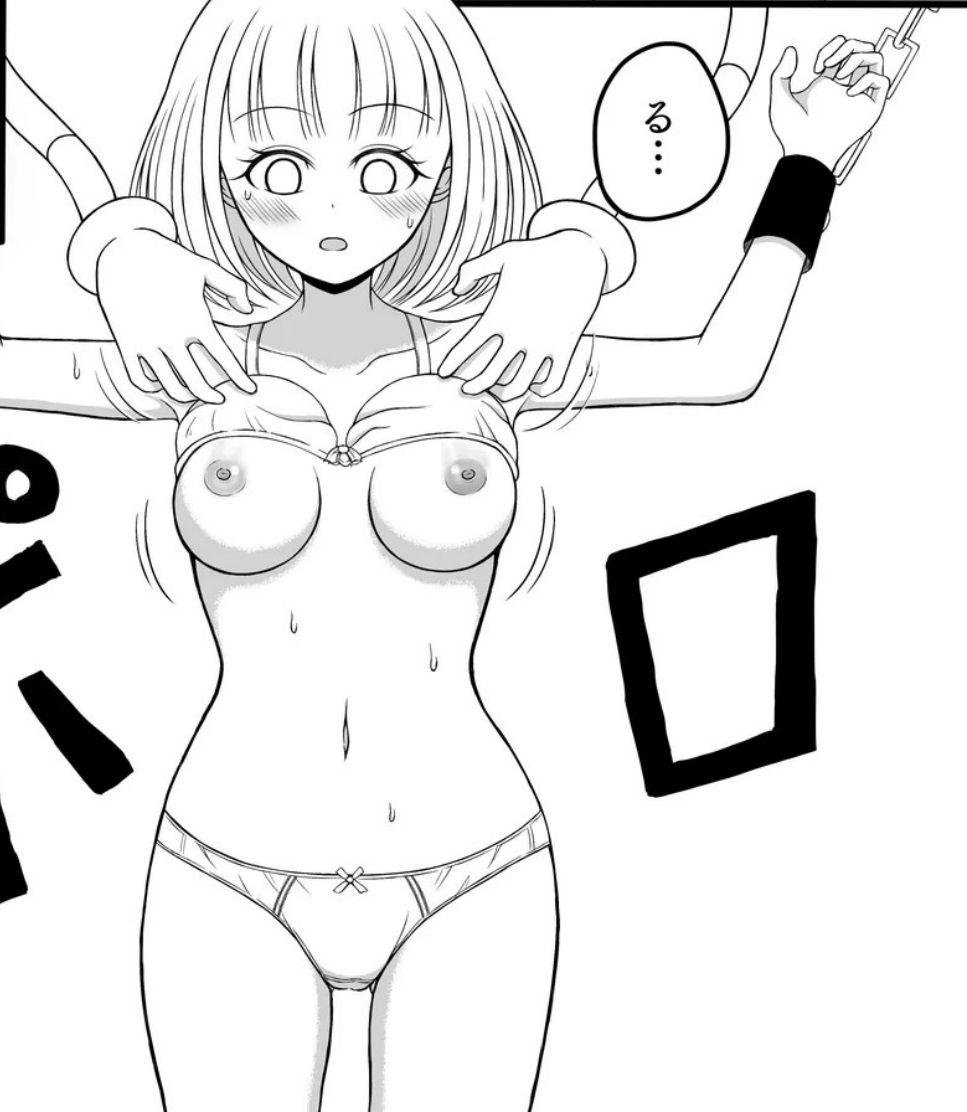
コチヨ

コチヨ

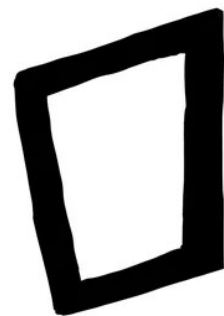
コチヨ

ブル

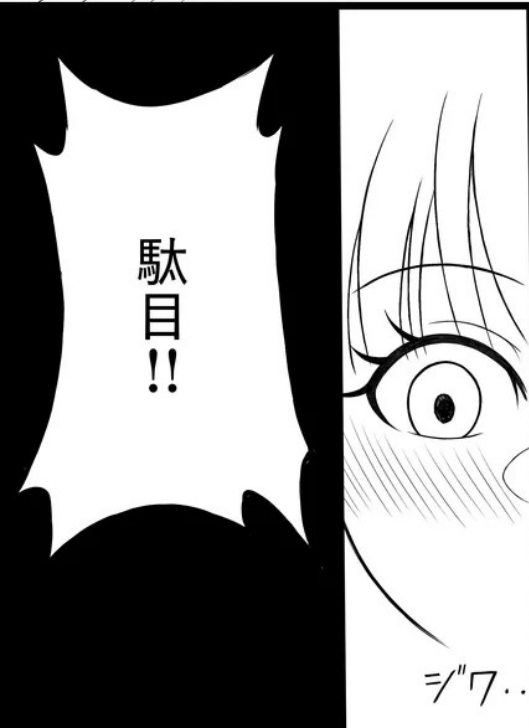
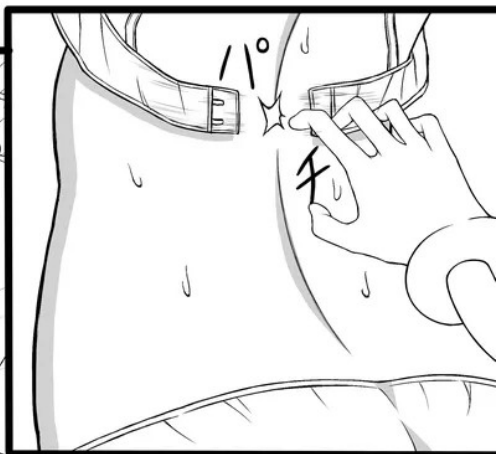
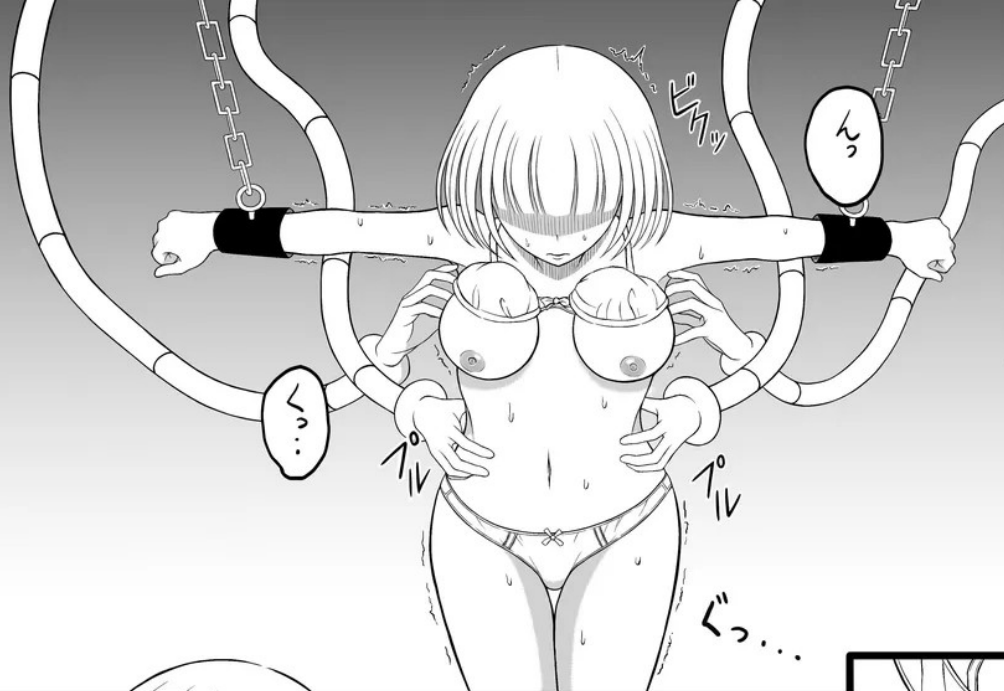
ブル

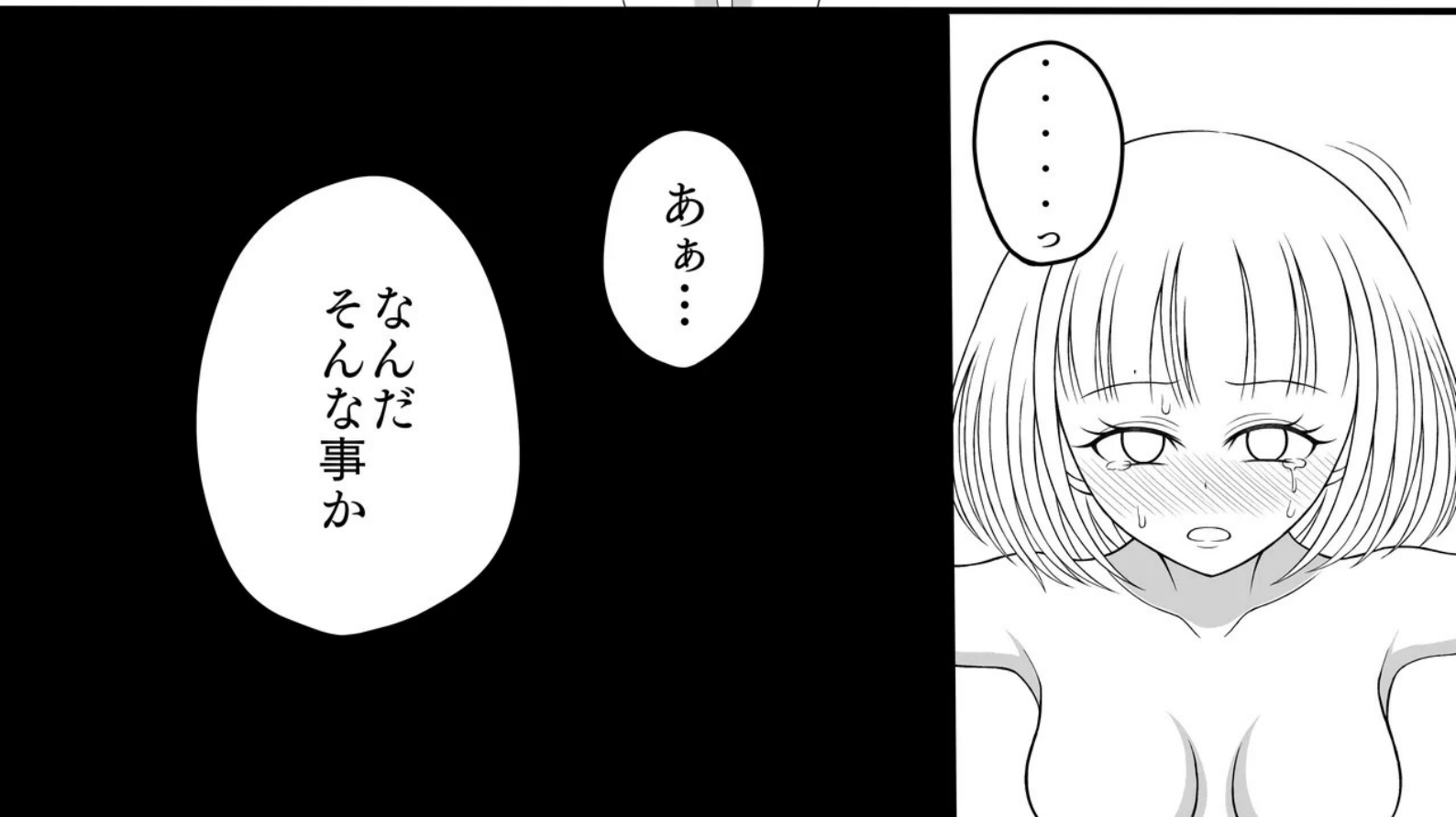
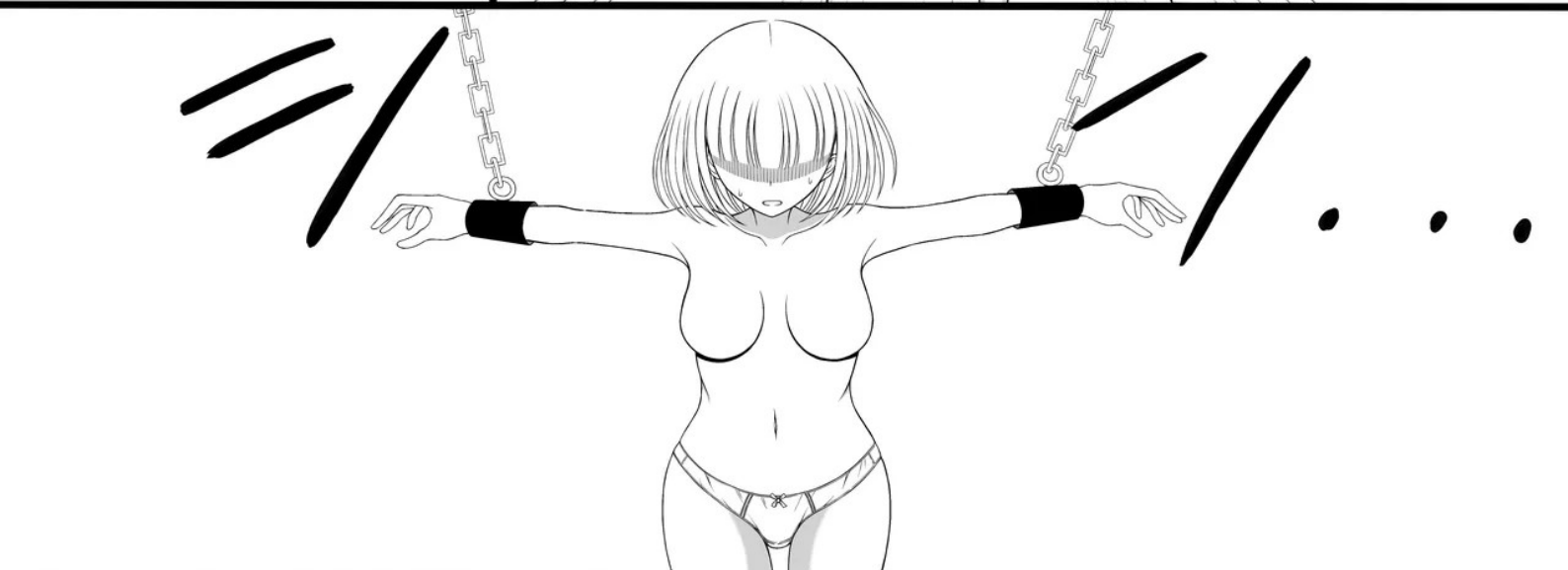
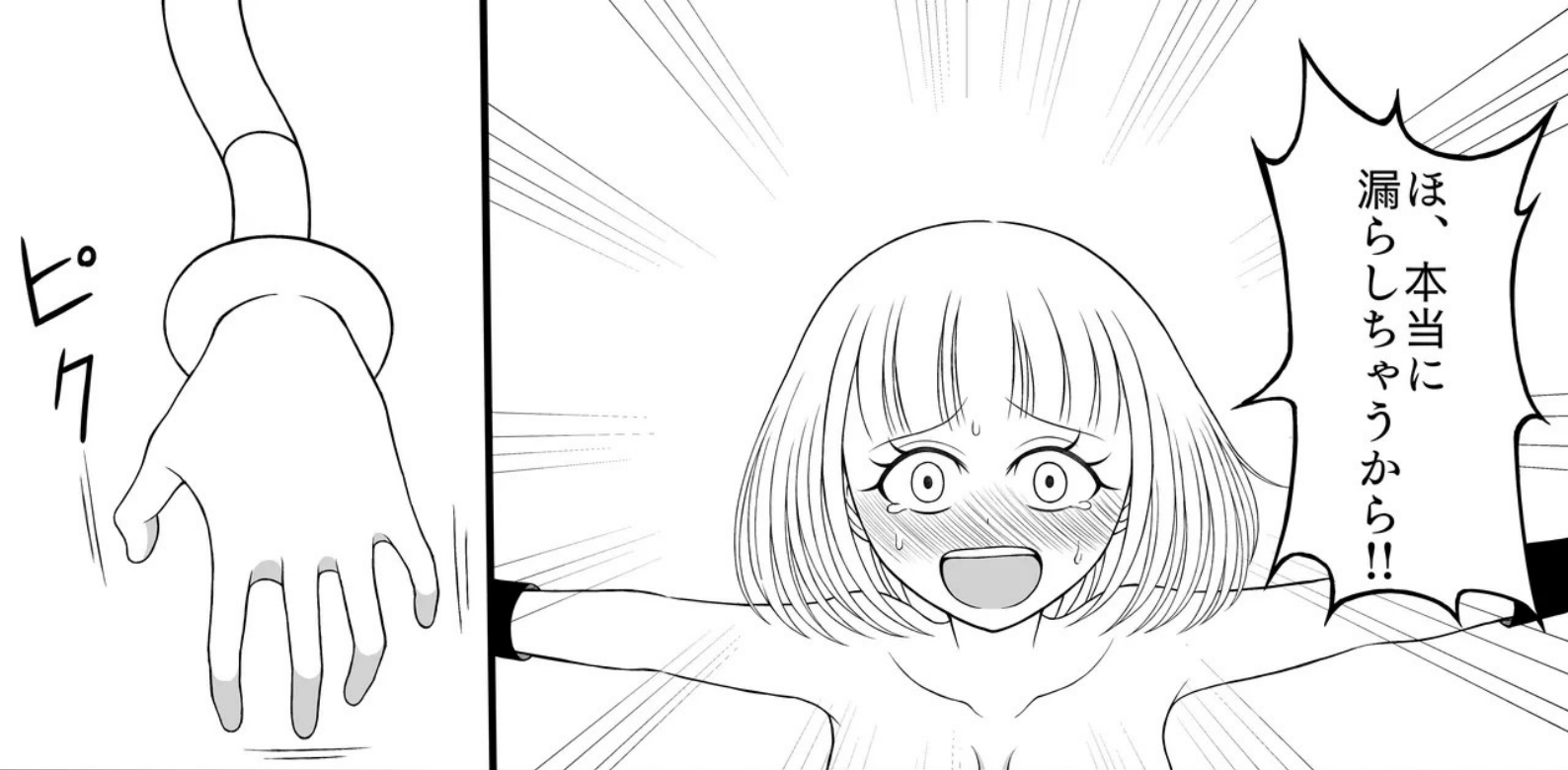


ポ



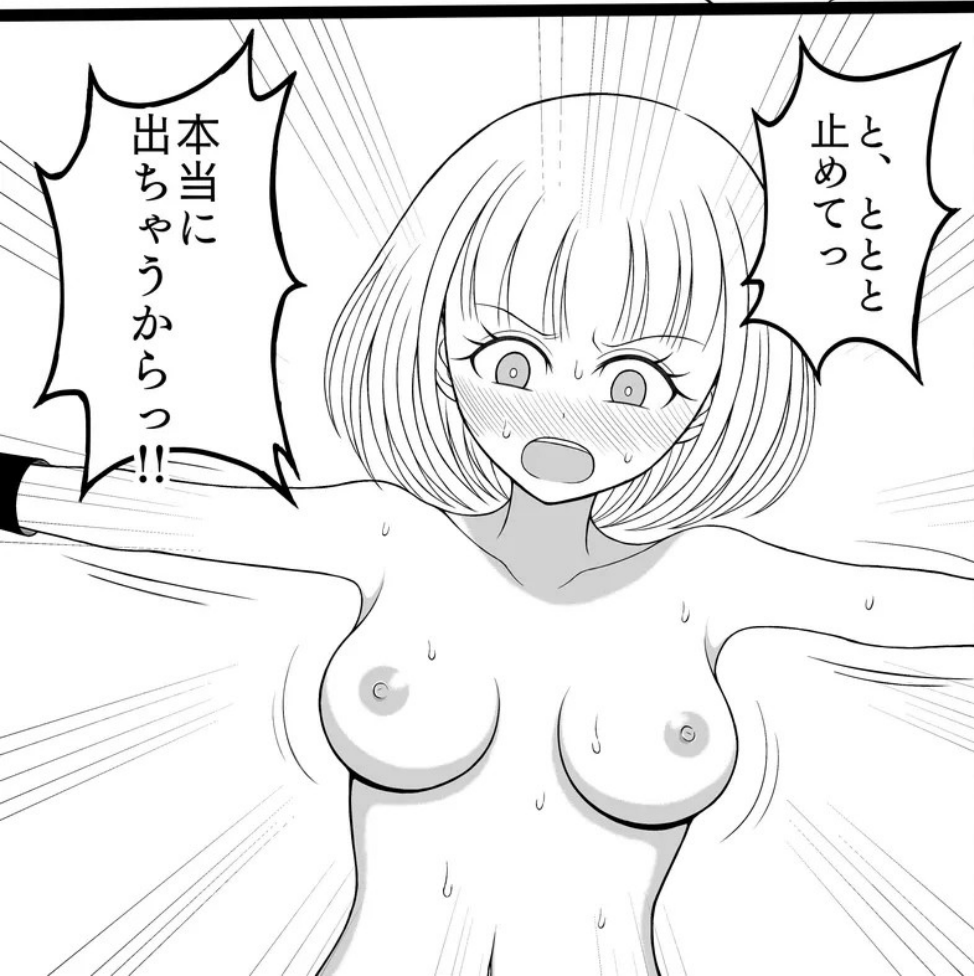






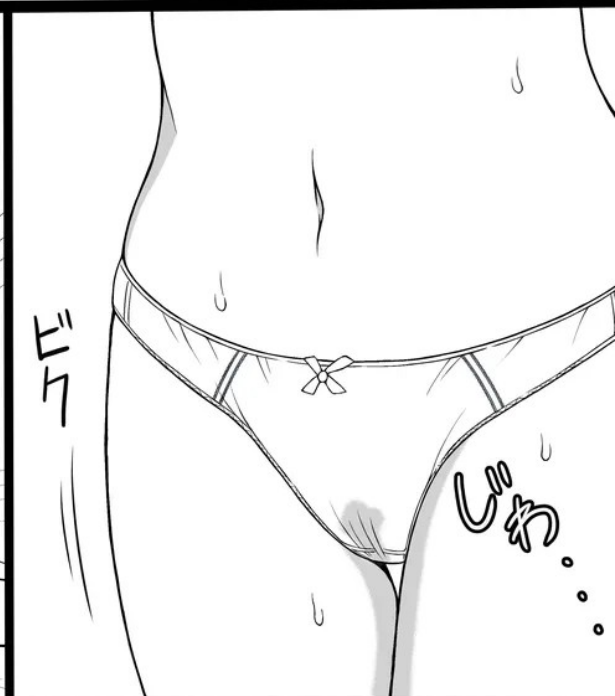


本当にもう……
駄目……かも……



本当に
出ちゃうからっ!!

と、ととと
止めてっ



ジュッ

いっわ……



あ……

尋問モード
終了シマシタ

…終わったか

バースト尋問
モードニ移行
シマス

何!?
まだ機能が
あるのか

他ニモアト
146通りノ
機能がアリマス

スゴいな!!
そんなにあるのか

フィル

まあ…
死にはしないだろう

フィル

ガタ

ガタ

ガタ

バースト尋問
モード
開始シマス

END

あとがき

こんにちは、猫ブリザードと申します。
「少女くすぐり潜入捜査」お読みいただき、誠にありがとうございます。

だいぶ間が空いてしまいましたが、今回で自分の作品は3冊目となりました。
今回の内容は1冊目のお話と内容がかなり似てしまいましたが、1冊目で描き切れなかった構図や表情を描けていれば良いと思います。

読んでくださる方達全てに感謝しつつ、これから更に皆様に良いなと思っていただけるような絵を描けるように更に精進していきます。

最後に改めて、この本をお読み頂いた方すべてに感謝します。ありがとうございました

猫ブリザード